

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で8番上野議員の質問を終了させていただきます。

次に、15番石橋議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ただいま議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして、大きく3点について質問をいたします。

不肖私、石橋敏伸は、本年4月の新市スタートとともに初の市議選におきまして当選させていただきました。私は市勢発展のため、市民の声を何よりも大切に全力で取り組ませていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、初めに、地域における安心・安全の環境づくりとその取り組みについてお伺いいたします。

近年の治安情勢は悪化の一途をたどっていますが、佐賀県内における刑法犯認知件数は、前年に比べ少しは減少したものの、1万1,040件に及ぶ犯罪が起きております。治安の安定は言うまでもなく、社会のあらゆる活動の基盤であり、犯罪をなくすためには警察活動だけでなく、行政と市民が一体となって取り組む必要があります。現在、全国各地においてさまざまな形で市民による自主的な防犯パトロールなどが行われております。こうした活動は地域住民のコミュニケーションを増大させ、犯罪の抑止に大きな力となることが実証されました。

こうした中で、本市においても安全・安心なまちづくりの取り組みが自治体や区長会、PTA、保護者会などで具体的に始まり、腕章やたすき、ベストなどをつけた市民の多くの方々が見受けられるようになりました。思えば、今年2月に秋田県藤里町で2人の小学生児童が痛ましい事件に遭うというショックが全国津々浦々に走りました。なぜこのようなことが起きるのか理解に苦しむのは私だけではないと考えますが、犯罪に走る心理が社会的背景を持つことは明らかであり、単に取り締まりを強化するだけでは解決できないものと考えます。抵抗するすべもない子供を傷つける犯人の姿には、残虐そのものであり、本当に怒りにたえません。児童・生徒の安全は社会全体で守っていかなければなりません。

本市にある子供たちは私たちの宝でもございます。また、健全な子供たちがふえることは私の誇りでもあります。現在、本市におかれましては、こども110番の家、市民による防犯パトロール、青色回転灯をつけたパトロール車による巡回を行うなど、市民の防犯への意識が高まったように見受けられます。このことは高く評価させていただきます。この青色回転灯は犯罪に対する抑止効果があり、大変注目しています。そこで、青色回転灯による防犯パトロールについて、次の点で本市の考えをお伺いいたします。

まず、1点、青色回転灯をつけた本市の自動車は何台配置されていらっしゃるのか。自動車の使用経過年数はどうなっているのか。また、今後青色回転灯をつけた防犯パトロール車

の配置計画を立てられているのかどうかをお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、現在、青色回転灯の装備を許可された車は何台かということでございますけれども、計で18台ございます。これは旧武雄市の各公民館に7台、それから、旧武雄市の小・中学校を含めて11台の計18台を配置しているところでございます。そして、そのほとんどが10年を超えているところでございます。

それから、今後の配置計画でございますけれども、現在12台を申請しているところでございます。この12台の申請をするに当たりましては、これもすべて公用車にするということでそれぞれの公用車をどこに配置するかということで検討いたしまして、本庁の公用車を4台、それから山内支所に2台、それから山内の各小学校の分を2台、それから北方支所で2台、それから北方の小学校に1台、中学校に1台、計12台を現在申請して、これによって配置をしたいというふうに思っております。

それから、これは市役所においても、ぜひこういった市民の安全については進めたいということで、市長を含めて、市長以下職員が青色回転灯防犯パトロールを実施できるように、本年、職員研修の中で防犯講習会を開催したところでございます。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。新車を12台ということですが、（「申請やろう」と呼ぶ者あり）12台申請ですかね。（「申請」と呼ぶ者あり）各町別に巡回が行われていると思いますが、巡回時間やその記録などで巡回日誌のいろいろな問題点について、どのような取り組みをなされているのかお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

主に青少年育成会の方でこのパトロールを実施していただいておりますし、特にそのパトロールの仕方、それから、パトロールに当たっての公用車の指摘もありましたように、非常に古いということで、AT車といいますが、そういうのが一台もないとか、それからガソリンをどうするのかとか、それと、時間帯によっては非常に難しいというような、協力していただく方の確保はどうするのかとか、そういった問題についてもいろいろ指摘をいただいておりますし、青少年育成市民会議、町民会議の中でも御意見をいただきながら、今後とも対

応を進めていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

車自体のことでちょっとお伺いします。

市では何年、公用車がですよ、西川登でいいますと、もう平成3年だから、15年たっているんですよ。市といたしましては、何年をめどに新車入れかえ等をなされるのかお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

特段何年ということは決めておりません。その車の状況、状態を勘案しながらということに対応していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

私もいろいろと公用車に乗る機会ありまして、本当にもう15年もたちますと、いろんなものが来ております。できるだけ早い時期にオートマチック車なり買っていただきたいと思えます。

そしたら、次の市道、農道の整備についてお伺いいたします。

新市になり、市道、農道とも相当な延長になると思いますが、道路台帳の整備状況や広域化した総延長を詳しくお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

合併しまして市が大きくなったわけですがけれども、それでもって管理する市道の路線数が979路線になりました。それから、総延長としまして607キロということになっております。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

武雄市の農道延長でございますけれども、約432キロとなっております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

旧武雄市は市道、農道につきましても、利用度が少ないところは、これを先日の小柳議員からも指摘がありましたけれども、あえて聞かせていただきます。

生コン支給でコンクリート舗装がもう30年前から実施されているところであります。しかしながら、農道に至ってはまだまだ未舗装が多くあるわけです。きのうの本会議でも小柳議員から市道、農道の生コン支給問題が提起されておりますが、最近、市が支給する生コン量が15立米ということで、大変少なく、完全に舗装が完了するまでには何年かかるかという気がいたしております。財政的にも大変だと思いますが、特に山や谷の多い我が西川登町では舗装ができないと、田畑は荒廃してしまうおそれがあります。現に荒廃農地も相当あります。この辺をどう考えているのか、お答えをいただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農道の未舗装地区でございますけれども、これにつきましては、現在、生コン支給、それから、市の単独土地改良事業によりまして、その舗装を進めております。先日もお答えを市長の方から申し上げましたけれども、生コンの支給につきましては、市長の方から指示をいただいております。新年度実施をめぐりまして支給基準の検討をいたしておるところでございます。（「検討だけじゃいかんばい」と呼ぶ者あり）

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

いい返事をいただきましたので、新年度に何立米ぐらいふやしていただくか、わかりましたらお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

具体的な立米の数とか、そういう分につきましては現在検討中ございまして、お答えできません。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

この舗装につきましても、舗装箇所については各地区に任せているわけですね。しかし、任せたとされても、各地区は困っているわけですよ。市も早急に実情を調査し、舗装をしていない地区はわかるわけですので、重点地区を決めて舗装の指導をすべきではないでしょうか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農道の舗装箇所につきましては、まず、基幹的な農道、特に利用の多い農道につきまして、その分から進めていきたいというふうに考えております。（「基幹的な農道は市道に認定しとろうもん」「そこがおかしかと」と呼ぶ者あり）

議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、午後1時10分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時59分
再	開	13時11分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

午前中に続き質問させていただきます。

台風13号による市道、農道などの傷みは大きく、市民の生活道路の早急な復旧は大きな課題であります。その点十分に留意して、早急な対策を期待しています。その点につきまして、どのようにお考えでしょうか、お答え願います。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

市道におきます災害による道路の分でございますけれども、できるだけ速やかに改修できるように努力をしていきたいというふうに思っております。なお、先般の台風13号による被害につきましては、まだ道路の災害は完全に把握できておりませんが、今、その分を調査しておるところでございますので、把握ができ次第、改修にかかりたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

台風13号によります農道の被害につきましては、今のところ地元の方から報告は受けておりませんが、そういうところがありましたら、早速農林課の方までお知らせをいただきたいと思っております。それによりまして、またうちの方でも対策を講じたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございました。

市道についてですけれども、各地区、市道は広いところもあり、狭いところもあるわけで、最近、一家に二、三台の車が必要で、道は狭くなったような気がいたしております。あちこちから用地は提供するから少し拡幅してくださいという相談も受けております。その拡幅状況等についてどうお考えか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

市道でございますけれども、事業を推進する上で、地元の協力や用地提供に応じてもらわなければ工事ができませんが、各地区のまちづくり推進協議会でお答えをいたしておりますように、道路の利用頻度、それから地元の優先事業を勘案し、工事着手をしております。当面は、合併前の建設工事を優先して整備をしまいたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

市道にはもう少し広く利用できる箇所もあるわけです。というのは、側溝にふたをすれば離合できる箇所があります。地区の方々に側溝にふたをするようにできないかとよく相談を受けますが、どうお考えでしょうか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

道路の側溝のふたを設置すれば少し道路が広がるというようなところもあるということで、現在も側溝整備で工事をいたしております。今後も歩行者、車両の通行の安全を図っていく上でも、側溝のふたの設置については取り組んでまいりたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

側溝整備については、今までは側溝は側溝のまま国土交通省とか指導して、なかなかそこに、例えばその上に歩道をつけたりとかというのはできんやっただです。しかし、全国的に見たら、愛知県あるいは富山県でだんだんそういうふうに側溝のところに、例えば耐重性のある木とか、いろんなとですぐ外せるような工夫をして、今そこを歩道にしている例を調べてみました。今後、もう少しそういうふうに広がっていけば、無理して用地を買収せんでも非常に早くできるとやないかなと。そういった観点で、またいろいろ調べてみたいというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

市長の答弁ありがとうございます。

次に、汚水処理についてお伺いいたします。

8月23日の新聞報道によりますと、全国汚水処理人口普及率が80%を超えたと報道されています。本市も山内、北方は農排等で、まだ全戸連結ができていないところもあると思いますが、管路は100%ぐらいは完成していると思います。旧武雄市は浄化槽が1,800個ぐらい。農排、下水道とただいま工事中であります。旧武雄市、山内町、北方町の普及率がどのくらいなのか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

全国汚水処理人口普及率は、議員おっしゃるとおり80.9%、佐賀県の汚水処理人口普及率が61.1%というふうになっております。武雄市の旧市町別の普及率でございますが、旧武雄市が32.6%、旧山内町が84.2%、旧北方町が30.6%、新武雄市全体では41.7%というふうになっております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

農排については、20年度、若木の川内地区が開始すると思いますが、その後の計画はどうなっているのか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

農集排事業の川内地区の後の計画でございますけれども、現在、武雄市の下水道計画の基本となります生活排水処理基本計画の見直しを行っているところでございます。これが済み

ましたら、実施計画となります下水道整備計画を来年度末までに作成し、今後の事業計画を決定する予定にいたしておりますので、今現在、どこということにはなっておりません。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ちょっと、まんじゅうをいっちょ。これはぼたもちではありません。我が西川登では、六角川上流と塩田川上流ということで、きれいな水を流そうと各戸300円を徴収し、このぼたもちじゃありませんけれども、EMまんじゅうをボランティアの方々に各地区500個、6地区ありますので3,000個をつかって、7月に河川に投入したわけです。また、10月には7,000個を投入する予定です。しかし、これも毎年やっていくのも大変であります。早急に上流地区の農排整備が必要と思いますが、どうお考えになっているかお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

大石建設部長〔登壇〕

河川浄化は議員おっしゃるとおりでございます。ただ、合併浄化槽を含めた水洗化事業の必要性は十分認識をいたしておりますけれども、新たな事業化につきましては先ほどの答弁で申し上げましたとおり、来年度策定予定の下水道整備計画を受けて決定をいたしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

河川浄化の件で一言申し添えたいと思います。

今、がばいばあちゃんの口ケ地は淀姫神社の河川であります。私は自分がそこで育ったということで、今回口ケ地になったということで、川さらいばしたとですね。そのときに一番多かったのは何だと思われるでしょうか。これは質問したらいかんですね。これは実は魚の骨であったりとか、あるいは固形物で何か肉のミンチのごたあとのそのまま流れてきるとですね。

だから、私はもちろんEMだんご EMまんじゅうですか。これは大事かと思えます。それとともに、生活を実際しておられる方々の住民、市民の皆さんたちが、そればそのまま捨てんさあぎんた、せっかく先般、上野議員とか、あるいは今の石橋議員とか話があったような、本当にその前段階のところをぜひ意識していただければなというふうに思いますね。それを取りさらただけでも、かなりやっぱりきれいになったとですね。ですので、そういった方で、また私も自分自身の生活について悔い改めて、皆さんにお願いしようというふうに思っている次第です。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ちょっとこの説明をいたしますけれども、これはきのうつくりました。1週間後にはこれが倍になるぐらいのカビが生えたものを川に投入する予定であります。ちょっとだんごはなおします。

次に、福祉についてのお伺いがあります。

少子化について、子育て支援でいろいろと策を講じて数年、本当に制度が生かされているのかと思うほど改善されたという結果は出ていないような気がします。実際、年度ごとに出生する子供の統計はどうなっているのかお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

武雄市の少子化の状況について御説明申し上げます。

パネルを使わせていただきます。（パネルを示す）平成13年度から17年度までの出生数を記載しております。平成13年度の旧武雄市については369名、平成17年度については295名で、5年間の間に74名少なくなっています。旧山内町では、13年度89名、17年度73名で、16名少なくなっています。旧北方町では、13年度77名、17年度では58名で、19名少なくなっています。それぞれ比率を出してみますと、旧武雄市79.9%、旧山内町82.0%、旧北方町75.3%でございます。合計の欄を見ていきますと、13年度が535名で17年度426名、100名少なくなつて79.6%になっているところでございます。

佐賀県と全国の比較表を右の方につけておりますが、比率を見ていただきますと、佐賀県が87.7%、全国ではこれは平成16年度までのデータでございますが、94.9%になっていきます。これを見ても、やはり武雄市が全国、あるいは佐賀県より少子化のスピードが早いということがうかがわれます。

議長（杉原豊喜君）

執行部の方に一言申し述べさせていただきます。

パネルの使用は許可いたしますが、会議録に記載で課題がありますので、パネルの説明には十分な配慮をお願いいたします。

質問を続けてください。15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございました。子育て支援として育児休暇、3歳未満の医療費無料、いろいろと施策はありますが、育児休業の利用状況はどうなっているかお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原保健福祉部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

パネルにより説明申し上げます。（パネルを示す）育児休暇の状況でございますが、武雄市のデータについてはございません。佐賀県により調査された平成17年度の状況を申し上げます。失礼しました。これは民間企業の調査でございます。

育児休暇制度を就業規則で定めている事業所は84.9%、慣行としてあるところについては2.8%、制度なしというところが11.4%ということでございます。

取得の状況でございますが、女性84.2%、男性0.4%、男性は1人ということでございます。

それから、取得期間の状況でございますが、10カ月から12カ月未満取得された方が39.6%、6カ月から10カ月未満の方が19.8%、3カ月未満の方が12.6%になっているところでございます。

企業規模別の取得状況でございますが、300人以上の企業については100%取得、それから、30人から99人の企業が96.7%、100人から299人までの企業が57.1%というような状況にございます。これで見ますと、300人以上の規模の事業所が取得状況、それから取得期間が長いということでございます。

〔30番「議事進行」〕

議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

30番（谷口攝久君）

パネルのことは結構ですけどね、何でもかんでもパネルで、そんなパネルをつくる時間があれば、その資料を私たちに 執行部はここから見て、その文字が見えますか。見える人はここに来て見てくださいよ。一生懸命見ようとしても見られない人もいるわけですよ。バリアフリーは何ですか。そがな説明するならね、それだけのパネルをつくる時間的余裕があれば、紙代出しますよ。コピーして配ったらどうですか。

そしてまた、私も経験ありますけれども、議事を進めていて、実際に議事録にどう記載するんですか。その分は指を指して何ページの何とって指示をして説明するならいいですけどね、実際にそのパネルを見ただけでも日本語があるじゃないですか。むにゃむにゃと言わんできちっと説明すれば、言葉でも十分理解できます。

ですから、そういう形できちんとできるように、議事において本当にパネルが必要なときは確かにいいことですけどもね、何でもかんでもパネルでやって、それくらいの準備する時間があれば、コピーをして答弁の資料として出していいじゃないですか。そういう進め方をしてほしいと思います。

わたくしは農村青年を対象とした事業が行われています。またさらに、杵藤地区広域市町村圏組合でドリームキャッチ12事業という事業が平成13年度から現在まで行われているところでございます。平成13年度から16年度までについては年2回の開催でございましたが、平成17年度については年1回の開催となっております。実施をいたすものの、なかなか結婚には至らず、結婚までのケース、事例については2例発生しております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

今お答えの中で2組ほど結婚に至ったということですが、団体見合いじゃなかでしようけれども、そういった呼びかけ等につきましてどういった方法でやっておられるのか、お聞かせ願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

ただいまの事業のPRでございますが、杵藤広域圏の方では広域圏だより、それから県の子育て支援のホームページでPRがされております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございました。

そしたら、2番目の介護保険についてお尋ねであります。平成18年4月からの介護保険制度改正についてお尋ねいたします。

全国的に高齢化が進み、介護や支援が必要となる方が増加し、将来の介護保険財政の悪化が危惧される中、急激な保険料上昇を抑制しつつ、必要なサービスを確保、拡充する、いわば制度の持続可能性を高める改革を盛り込んだ改正介護保険法が昨年6月22日に成立し、4月から施行されております。今回の介護保険制度の改正において、これまで以上に要介護状態の発生をできる限り防ぎ、要介護状態にあっても、その悪化をできる限り防ぐ介護予防の考え方が強く打ち出され、高齢期の自立と生きがいにつながることの重要性がうたわれております。

その実現に向けて、第1に、要介護状態を軽減、悪化防止などのため、自立支援をより徹底する観点から、軽度者に対する新予防給付が、第2に、介護予防を推進するとともに、地域における包括的、継続的なマネジメント機能を強化する観点から、地域支援事業が新たに創設されました。高齢者が尊厳を保ち、健全な心身でより長く、自立生活を送ることができ

る社会を目指す上で、生活機能の低下、事前に防ぐ予防重視型制度への転換は、介護保険制度の初めての抜本改革である今回の介護保険改革のまさに目玉であります。

さて、本市においても御他聞に漏れず高齢化が進展し、65歳以上の高齢者率は23.98%、高齢者人口も1万2,557人となり、今後も一層増加が見込まれております。そうした中、活力ある魅力あふれるふるさとづくりのために、高齢者一人一人のライフステージや心身の状態に応じた介護予防、健康づくりの取り組みに一層推進し、高齢者が社会の一員として生き生きと活躍できる環境づくりが重要であります。また、高齢者の生活の質の向上のためには、高齢者ができる限り住みなれた地域で生活を継続できるよう、地域において支援する取り組みが重要ではないでしょうか。一時的に介護が必要となることがあっても、遠く離れた施設ではなく、住みなれた地域でそれまでの人間関係を保ちながら介護予防に取り組むことが重要と考えます。

そこで、お尋ねであります。本市において、これまで介護予防についてどのような取り組みを行ってこられたのか。また、制度改革を受けて、今後どのように取り組むのか。そこにこれまでの取り組みをどのように生かしていくおつもりなのか、お伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、介護予防の取り組みでございますが、これまで機能訓練などの老人保健事業や介護予防教室の実施など、地域での介護予防に取り組んでまいりました。今回の制度改革で予防重視の取り組みが重要になるわけでございますが、新年度から創設されます新予防給付や地域支援事業において、高齢者の運動機能、栄養改善等に取り組むとともに、今後は身近な地域で継続して介護予防に取り組むことができる自主グループの育成等を図ってまいりたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございます。前向きに考えていくそうであります。どうかよろしく申し上げます。

また、今回の制度改革にあわせて介護保険料の改定もなされております。介護保険制度もスタートから6年、制度が定着し、高齢者の生活の質の向上に結びついていることは望ましいことではあります。必要なサービスを確保しつつ、急激な保険料の上昇を抑制することが課題であります。一般質問の最初に30番議員の方から質問もありましたですけれども、私の方もさせていただきたいと思っております。

今回の法改正では、保険料の段階設定が市町村にゆだねられました。保険料段階の設定には負担軽減の観点も必要と考えますが、本市における3年間の保険料の段階設定と介護保険料はどのくらいなのかを、また県内の状況についてお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原保健福祉部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

パネルを使わせていただきます。（パネルを示す）

お答え申し上げます。

まず、段階の設定でございますが、先ほど議員からございましたように、6段階制ということになっております。一定以上の所得のある方に御負担いただくということで、その他の段階の方の保険料の負担軽減を図っているところでございます。御承知のとおり、杵藤広域圏の基準額というのは5,123円になっております。これが第4段階でございます……

議長（杉原豊喜君）

部長、そのパネル示していただいて結構です。

中原福祉保健部長（続）

基準額が第4段階で設定されております。それぞれ第1段階から第6段階までございまして、第1段階については基準額に0.50、半額という形で設定をされております。同じく第2段階についても、0.50の設定で2,562円となっております。第3段階につきましては、基準額に0.75を掛けまして3,842円でございます。それから、第5段階については、基準額に1.25を掛けまして6,404円ということになっております。それから、第6段階につきましては、基準額に1.50を掛けまして7,685円ということになっているところでございます。

また、県内の保険料の状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

質問者に向けてください。

中原福祉保健部長（続）

はい。杵藤広域圏については、先ほど紹介いたしましたように5,123円でございます。唐津市については4,292円、伊万里市については4,900円、玄海町につきましては4,000円、有田町についてでございますが、これは合併しておりますが、旧町で料金が違っております。旧有田町で4,221円、それから旧西有田町で3,789円、鳥栖地区広域圏では4,356円、佐賀中部広域連合では4,292円ということになっているところでございます。御承知のとおり、杵藤広域圏の保険料が一番高いということになっているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

パネル2枚も使って説明していただきまして、ありがとうございました。高齢者が尊厳を保ち、健全な心身でより長く自立生活を送ることができる社会を目指していただきたいと思います。

次に行きます。大きな3番目に行きたいと思います。不登校についてのお尋ねでございます。

発達障害者に対する支援についてお伺いいたします。

平成16年12月3日、発達障害者支援法が成立し、平成17年4月1日から施行されております。この法律は社会から孤立し、悩んでいる当事者や家族をこれ以上追い詰めないためにも大いに期待していると喜びの声が寄せられております。

発達障害者は低年齢であられることが多く、文部科学省の調査では、小・中学校生全体の6%に上る可能性があると言われております。自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群などの発達障害者が特に注目されております。

事例を紹介しますと、ある子供がクラスの仲間に声をかけられると、声をかけた相手をひっかいてしまう。どうしてひっかくのかと聞くと、ひとりで本を読みたいのにいつも声をかけてくるからというのです。周りはその子が何をするのか不可解で、非常に疲れるというものであります。また、ある母親が子育てに疲れ切ってしまい、あんたなんかおらんでもよかと言ってしまいます。子供が布団の中で泣いている姿を見て、母親は自責の念にかられて反省するものの、翌日はまた同じことを言ってしまいます。そして、子育てに自信を失うというものであります。

そのような人たちは障害の認識のないまま社会に出て、他人と関係が持てず、人とのコミュニケーションがうまくとれないことからトラブルの原因となっております。学校でも職場でもうまくいかず、長期の引きこもりに陥ったり、精神障害を引き起こすというものが現状であります。また、高機能自閉症など外見上障害とわからないため、治療が早期であるほど効果があると言われております。

そこでお伺いですが、発達障害者に対して早期発見と支援が重要であります。本市においても発達障害者を見落とさないためにも、乳幼児の健康診断の充実と就学時健康診断の導入をぜひ検討していただきたいと思いますと考えますが、本市のお考えをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

学校生活におきまして、子供たちの発達の視点から寄り添って支援をしていってやりたいなという子供というのは、やはり見落としがちになる場合もあります。そういうことで、今、議員の方から御指摘のように、普通の学習活動には、知的活動には十分参加できるけれども、集団生活の中で幾分かついなという子供さんのことが話題になっているのが、実は特別支援

教育の軽度の発達障害の領域でございます。今、学校教育を担当します教育委員会といたしましては、やはり早期にそういう状況の情報をつかむというのが一番大事でございますので、まず就学前の対応について申し上げ、そして、その後の学校の就学後のことについて二つに分けて申し上げさせていただきます。

まず、就学前につきましては、議員の皆様方も御承知のように、新入時健診というものを実は行っているわけでございます。そのときに保護者の皆様からの御意見を伺うこと、あるいは健康診断のときに校医の先生からの情報を得ること、あるいは教職員の面接において教育相談的な視点から情報を得ること、そういうふうなことでその子供さんの状況を把握することに努めさせていただいております。もちろん、年2回ございます巡回就学相談のときに、既にそういうことで御相談をいただく親御さんもいらっしゃいますので、そのことも参考にしながら進めさせていただいております。

次は、学校に入学した後でございますが、これは今現在、校内委員会というものがございまして、軽度の発達障害という視点での学問的な名称は先ほど議員からお話がありました、寄り添っての支援というような視点から、校長を中心にした校内委員会というものを実施させてもらっております。そのときには当然、学級担任の情報はもちろんのこと、保護者の皆さんからの御相談等、非常に大事な情報でございます、これにラベリングをするという視点ではなくて、より集団生活の中でその子供さんの健やかな成長にどういうふうに学校集団としてかかわっていった方がいいだろうかというようなことで、実は取り組みをしているところでございます。それから、校医の先生との連絡ですね、これも行わせてもらっております。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

乳幼児等の発達障害の件でございますが、発達障害の有無について、乳幼児健診等の中で行っております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

それぞれの担当職員にとって、発達障害という障害の特性を理解しなければ取り組むことが難しい実情であります。また、障害を持った子供のニーズに合った対応ができる環境づくりが重要であります。そのためにも、相談に当たる市の職員、学校の教職員や幼稚園の先生、保育園の保育士などの研修が不可欠であると考えますが、市の見解をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

現在、職員の体制でございますが、教職員の校務分掌の中に新しく特別支援教育コーディネーターという制度が位置づけられまして、各小学校、中学校校務分掌の中に位置づけられ、研修をしながら、その対応をさせていただいております。また、6月議会で御承認いただきました本市独自の小学校4、中学校1の学校生活支援員ということで配置をさせていただきました。この支援員の皆様につきましては、大変今頑張ってもらっておりますし、今後、一層この支援員の拡大ができたらなと希望を持っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

次に、市内小・中学校の校舎改築についてのお伺いであります。

平成18年度から東川登小学校の改築工事が既に始まっております。東川登小学校の工事が終了すれば、西川登小学校の改築もなされると思っておりますが、また同校の矢筈分校は築60年を経過しようとしております。山内町の二つの分校は改築がなされており、ぜひ矢筈分校の改築工事もお願ひしたいと地元の要望もあります。校舎の改築について、今後の見通しをお示しいただければ幸いです。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

西川登小学校の方ですが、現施設の状況については私どもとしても十分理解をいたしているところでございます。学校の施設整備計画につきましては、本年度、北方小学校の耐震調査、これを今やっているところでございまして、これをもって市内の全部の小・中学校の診断結果が出そうというようなこととなります。この結果を踏まえまして、危険度、それから老朽度、それから耐震性、いろんな視点から総合的に判断をいたしまして、新市の総合計画の中でどういう取り組み方を進めていくか検討をするということになるかと思いません。

また、矢筈分校ですけれども、こちらは昭和23年に建設をされておまして、かなり老朽化が進んでいるという状況でございます。これにつきましても、総合計画の中で検討をしていきたいというふうに考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

なるべく早く改築していただきたいと思っております。

次に、最後になりますけれども、学校給食についてお聞きいたします。

旧武雄市は全校民間委託がなされておりますが、山内町、北方町の学校給食はセンター方式で行われております。自校式という考えは持てないのかお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

旧山内町と旧北方町につきましてはセンター方式ということでやっておりますし、旧武雄市におきましては平成8年から5年間かけまして民間業者に委託ということで、現在、単独調理校方式でやっております。こうすることで、現在の武雄市には二つの給食の調理方式があるわけですが、議員御質問の給食センターの今後の運営のあり方、また方向性につきましては、財政面、あるいは子供たちへの食育、そういった観点から、地域審議会あるいは行政改革の懇談会等ございますので、その中で十分議論をしていただきたいというふうに思いますし、また、私ども教育委員会としても、今後の方針について十分検討をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

学校があり、給食があり続けるためには、学校給食法が変わらない限り、給食は教育的なものであると考えられます。そうすれば、学校に理科室や図書館があるように、各学校に食事室として給食調理室を戻すという考えはいかがでしょうか。本市では自然環境がよく、子育てにはいい環境だと言われております。学校給食の自校方式となれば、子育ての中の人たちには広く賛同してもらえんと思います。自校式は費用がかかるという目先にとらわれずに、長い目で人を育てるという観点から、市の姿勢をはっきりと自校式とすれば、地場野菜の取り組みも1校ずつの対応が少量ずつになり実現しやすくなると思いますので、よろしく願います。

以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で15番石橋議員の質問を終了させていただきます。

次に、6番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番宮本議員